

# 青雲館新聞

発行 秋田県立横手高等学校 青雲館  
 編集 出版委員 会  
 〒013-0037 秋田県横手市前郷二番町10番1号  
 TEL 0182-32-2011 FAX 0182-32-0133

# ようこそ青雲館へ 入学おめでとう

## 令和3年度入学式

今年度の入学式は、新入生・保護者・職員のみで執り行われた。昨年同様在校生は参加できなかった。来年こそは参加できるようにしてほしい。



令和三年四月六日(火)に全日制校舎で入学式が行われた。今年度はI部三十五名、II部一名が入学した。コロナウイルス感染予防のため、新入生・保護者・職員のみで行われた。

在校生の参加が見送られたのは今年で二年連続のことだ。本校に行き新入生を暖かく迎えることができなかったことに在校生として悲しく思う。四十五名という多くの入学生・転編入生により学校の活気もいっそう溢れていくことだろう。

無事合格でき安堵していた。春休みを心置きなく過ごせた。しかし、すぐ入学式の日になった。本校の校舎で入学式だったので新入生がたくさんいた。緊張していたが、後藤先生方が和ませてくれたおかげで、リラックスして式に出られた。式中、これから新しい学校、新しいメンバーで高校生生活を送ると思うと、とてもワクワクし早く学校に行きたいなと思った。

## ICTコラム1

「GIGAスクール構想」とは、ICT技術の社会への浸透に伴い、小中高学校などの教育現場で児童・生徒各自がパソコンやタブレットといったICT端末を活用できるようにする取り組みだ。本校でも令和3年3月26

日、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金でNEC製のクロームブックが導入された。政府が行っている「GIGAスクール構想」が新型コロナウイルスによって急激に早まった形だ。当初は、2020年から5年をかけて環境を整備する予定だった。しかし昨年2、000億円を超える補正予算案が組まれ、多くの地域が令和2年度中に納品することができた。

令和2年度中に納品ができたのは1748自治体で、納品できなかったのは64自治体だった。理由として、端末への需



4 A 西村 元貴

## 図書紹介

### ずっと見つめていた

森島いずみ/作 しらこ/絵  
 小学6年生、越の一家は、妹つぐみの化学物質過敏症が治らないため、埼玉県から富士山の見える山梨県に引っ越す。大きく環境が変わった越は、複雑な思いで地元の中学校に通う。著者の実体験をもとに書かれたある一家の再生の物語。



人間にとっての教養とはなにか  
 橋爪大三郎/著  
 自分の時間をいかに有効に使って、「学び」に費やすか、というのには非常に重要な。人はなぜ学ぶのか? いかにして学び、何を学べるべきか? 現代の「知の巨人」橋爪大三郎が教える、大人のための学び方。



### クスのノキ 番人

東野圭吾/著  
 その木に折れば、願いが叶うと言われていたクスのノキ。その番人を任された青年とクスのノキのもとへ祈念に訪れる人々の織りなす物語。



### 雪のなまえ

村山由佳/著  
 つらいことからどうして逃げたいか、都会から田舎で暮らす小学5年生の雪乃とその一家の葛藤を描く、感動の成長物語。



### 推し、燃ゆ

宇佐見りん/著  
 逃避でも依存でもない、推しは私の背骨だ。アイドル上野真幸を『解釈』することに心血を注ぐあかり。ある日突然、推しが炎上!



### この本を盗む者は

深緑野分/著  
 書物の蒐集家を曾祖父に持つ高校生の深冬。父は巨大な書庫「御倉館」の管理人を務めるが、深冬は本が好きではない。ある日、蔵書が盗まれ、父の代わりに館を訪れていた深冬は残されたメッセージを目にする。

# 県南総合体育大会

## 県南総体団体結果

- バドミントン 男子団体  
1位 角館  
2位 横手
- バドミントン 女子団体  
1位 角館  
2位 横手

卓球団体は人数不足のため出場なし



令和三年五月十五日(土)に角館高等学校校定時制の校舎で行われた。バドミントンと卓球の競技が行われた。昨年は新型コロナウイルスの影響で春の大会を行うことができなかった。今年度は、どうにか開催することができて本当に良かったと思う。

一年A組の松本彩香さんは、大会当日に足を負傷していたにも関わらず、試合では個人優勝を果たすことができた。四年A組の西村元貴さんは、今年が最後の大会ということで、キャプテンとして大会では、一年生が初めての大会だったが、出場した全員が練習の成果を出し切ったプレーできていたと思う。



四年A組の柴田春風さんは、部員が二人しかいない中、最後の大会で個人優勝することができてよかった。卓球部は残念



バド部の自分は今回の大会で、団体戦のときに足を怪我してしまい、個人戦に出場することができなかった。しかし、いつもと違う気持ちを経験したことは、今になってみると、大事なことを発見できたように感じた。全県大会では、今まで練習してきた成果を出し切って一勝でも多く勝てるように頑張りたい。

3 A 小原 青空

# 晴天の中行われたクリーンアップ

四月二十日（火）に全校でクリーンアップが実施された。学校周辺を各クラスごとに歩き、記念公園運動広場までの道のゴミ拾いをした。また、クラスごとに記念撮影も行われた。



私が、今回クリーンアップに参加して思ったことは、横手市が想像よりもずっと綺麗だったこと、クリーンアップで綺麗になった町と桜が非常に美しかったことです。ポイ捨てを絶対にしてはいけないと再確認したり、外に出て花見をし、自然の良さについて感じたり考えたりする良い機会になりました。これからも、このような活動に取り組み、いろいろなものの良さを発見してみたいと思います。

1 A 伊藤 有希



四月二十日の三・四校時にクリーンアップを行いました。クラスごとに学校周辺の道路や草むらに落ちていたゴミを分別しながら回収しました。また、崖の下に落ちていた空き缶やペットボトルのゴミを降りて回収している生徒もいました。生徒や先生方が頑張ってくれて綺麗にしたかきもあって、学校のグラウンドや周辺の道路はとても綺麗になりました。これから快適に登下校することができるようになります。

2 A 堀川 愛華



三年生最後のクリーンアップでした。三年間でたくさんのゴミを拾いました。特に二年生のときには、乾電池などが多く落ちていて驚きました。このように地域に貢献できるのはとても良いことだと思っております。卒業してからもこのような地域活動に積極的に参加したいと思います。

3 A 小河原 青空



クリーンアップでは、全校で地域のゴミ拾いを行いました。多くのゴミを拾うことができたので良かったです。

また、記念公園でクラスごとに記念写真を撮りました。晴れていたけれど風が強くて大変なこともありました。みんなが一生懸命ゴミを拾うことができてよかったです。

最後はグラウンドの石拾いを全校で行いました。石は、あまりなかったけれど、グラウンドを綺麗にできてよかったです。

3 B 佐藤 綾花

## 委員長 あいさつ

風光る（かぜひかる）  
暖かくなり、日差しが強くなる季節に、吹く風も輝くように思える様子。主観により、鋭く輝く感じを指したり、柔らかに光る感じを指したりする。

朧月（おぼろづき）  
霧や霽（もや）などに包まれて、柔らかなほのかにかすんで見える春の夜の月。

この度、出版委員長を担わせていただくことができ光栄に思います。わたしは出版委員の活動に参加するのはこれが初めてではありますが、編集長を務める西村元貴さんおよび委員会の皆さんにより良い活動ができるよう努力します。

挨拶はこれぐらいにしておいて私のことを知ってもらうために軽く自己紹介をしたいと思います。出身は横手北中学校で三年間吹奏楽部に所属しています。



今年度の生徒総会を振り返って、私自身は緊張しながらも議長として、必要最低限の仕事ができたと考えている。なぜなら、ほぼ時間どおりに進行することができたからだ。全校生徒の前でなにか話すのは経験がなく、大変だった。けれどもこの経験はいつか役立つと考える。

全体を振り返って、滞りなく議事が進んだ。生徒会長の阿部大雅さんを中心に、生徒会、各委員会の委員長の適切な説明で議事を進めることができた。しかし、質問をしたり、意見を述べたりする生徒は誰一人いなかった。質問や意見があることで、生徒総会はより活発になる可能性がある。そのため来年の生徒総会では質問や意見が飛び交うような場になってほしい。最後に生徒総会に協力してくれた生徒会をはじめとす皆様に感謝を申し上げます。

3 B 向川 史紘

## 私は人間を食べました。



題名から感じることは大体が不快感だろう。しかし最後にはほかの感情が芽生えるかもしれない。「白鯨」という本の題名を一度は聞いたことがあるだろう。世界の十大小説、アメリカ文学を代表する名作だ。白い大鯨に片脚を食い切られた捕鯨船の船長エイバフは、復讐のために白鯨を追い求めた。ついにはこの物語の語り手である水夫を残し、乗組員全員を滅亡に追いやる。まさに復讐劇の典型的な内容である。ハーマン・メルヴィルの

4 A 菅 生輝



## 2年ぶりの生徒総会

令和三年五月七日（金）生徒総会が体育館で行われた。生徒総会には全校生徒が参加し、昨年度や今年度の事業報告、決算報告、今年度の議案書審議が行われた。

今年度の生徒総会を振り返って、私自身は緊張しながらも議長として、必要最低限の仕事ができたと考えている。なぜなら、ほぼ時間どおりに進行することができたからだ。全校生徒の前でなにか話すのは経験がなく、大変だった。けれどもこの経験はいつか役立つと考える。

全体を振り返って、滞りなく議事が進んだ。生徒会長の阿部大雅さんを中心に、生徒会、各委員会の委員長の適切な説明で議事を進めることができた。しかし、質問をしたり、意見を述べたりする生徒は誰一人いなかった。質問や意見があることで、生徒総会はより活発になる可能性がある。そのため来年の生徒総会では質問や意見が飛び交うような場になってほしい。最後に生徒総会に協力してくれた生徒会をはじめとす皆様に感謝を申し上げます。

## 編集後記

青雲館新聞第37号を読んでくださりありがとうございます。今年度は昨年のように臨時休校などがなく、今ところ多くの行事を行うことができています。また、今月には全県総体、来月にはクラスマッチが控えています。選手の方には、昨年度を振り返り、今年度の大会にぶつけて一勝でも多く勝ち残ってほしいです。

また、図書紹介に記載している本以外にも『ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人』東野圭吾』など新しい本が図書室に入っているのぜひ探してみてください。さて、青雲館新聞第1号が発行された2013年（平成25年）には、一年に8回発行されました。そのほかにも総体や星河祭、百人一首などの特集号も発行されてきました。現在の出版委員会では難しいことですが、青雲館新聞は、今年度の3月に発行予定の新聞で40号になります。先輩方が今まで残してくれた新聞をこれからも残していつか読んでほしいと思います。これからもぜひ読んでみてください。

4 A 西村 元貴